

清掃港湾・臨海部対策特別委員会傍聴記

平成21年(2009年)6月18(木) 午前10時～

当日議会資料を参考に作成

●理事者・東京都・一組発言(要旨のみ)

■議員からの発言(おおまかな要旨のみ)

赤字は傍聴者の感想等

なお、理事者や議員の言い回しは正確な記録ではないのでご了承下さい。

懸案事項

- (1) 清掃問題について
- (2) 港湾・臨海部問題について
- (3) 病院整備について

毎年、各委員会担当議員の編制替えが行われている。今回はその初回のため議長・副議長挨拶、正副委員長挨拶、理事者側出席者の紹介が終わってから、清掃港湾・臨海部対策特別委員会の懸案事項について理事者から説明があった。今回は委員総数11名中、女性議員が4名もいる。

議 題

- (1) 19 陳情第45 号の2「不燃ごみとして出されているプラスチックを清掃工場で焼却することについて」の陳情(継)
- (2) 19 陳情第85 号の2「廃プラスチックの収集・焼却」に関する陳情(継)

(1)(2)の一括審議となる。審議とはいっても理事者がこれまでの経緯を説明しただけ。前回委員会で「実証確認試験結果でも影響は見られなかった。3月30日から本格実施が始まるのだから委員長から陳情者に陳情を取り下げようように話をすべき」の意見が出ていた。それを請けて委員長は陳情者に連絡を取っているがまだ連絡とれずとのこと。委員からは何も意見もなくそのまま継続審議となる。(それにしても、今回やっと第3回の実証確認実施報告があるところ。まだ本格実施以降の実証確認(5月実施)報告はされていない。なぜそんなに早急に陳情の取り下げまでさせるのか、理事者も議員も陳情の趣旨など理解しているのだろうか。

(3) 委員の派遣について

報告事項

- (1) 有明及び新江東清掃工場の20年度実績と21年度搬入計画について

東京二十三区清掃一部事務組合からの報告(資料3から)

(1) 有明清掃工場

平成20年度実績(速報値)

事業系一般廃棄物 (311日)	搬入量計	1日あたり搬入量	搬入台数計	1日あたり台数
	95,809t	308t	60,864台	196台
計画(310日)	116,560t	376t	72,850台	235台

管路収集ごみ (365日)	収集量計	1日あたり収集量
	4,285t	12t
計画(365日)	5,475	15t

管路ごみの割合
約4.3%

合計(搬入量及び収集量)		
	100,094t	(前年比7.8%増)
(計画量)	122,035t	

平成21年度搬入計画

事業系一般廃棄物 (311日)	搬入量計	1日あたり搬入量	搬入台数計	1日あたり台数
	109,379t	352t	68,420台	220台

管路収集ごみ (365日)	収集量計	1日あたり収集量
	4,234t	12t

合計(搬入量及び収集量)
113,613t

(前年計画値比6.9%減)

実際にはH20年度100,094tに対して113,613tの搬入計画であるから13.5%の増である！

(2)新江東清掃工場

平成20年度実績(速報値)

作業日合計 (360日)	搬入量合計	搬入台数合計
	355,815t	238,015台
計画	360,747t	225,506台

(前年比1.5%増) H19年351,070t

平成21年度搬入計画

平常作業日 (311日)	搬入量計	1日あたり搬入量	搬入台数計	1日あたり台数
	306,180t	985t	204,327台	657台

日曜作業日 (49日)	搬入量計	1日あたり搬入量	搬入台数計	1日あたり台数
	39,759t	811t	26,509台	541台

作業日合計 (360日)	搬入量合計	搬入台数合計
	345,939t	230,836台

(前年比4.1%減)

■平成21年度「有明及び新江東清掃工場の基本搬入計画(日量)」(図)

■平成21年度 基本搬入計画{可燃・不燃・粗大}(23区全域一覧表)

新江東清掃工場の基本搬入計画(日量)【985t/日】
新江東清掃工場への搬入ごみは <u>江東区と江戸川区分の区集ごみと持ち込みごみを基本として計画しています。</u> <u>江東区の区収集分349t/日 + 江戸川区収集38t/日 + 持込み598t/日</u>

こんな杜撰な基本計画??こんなものもらってもなんの役にも立たないのでは? ~ ~まあ、これくらいしか書きようもないのだろうけど~ 議員さんこの数字の矛盾に気がついたらまた怒り出すのではないだろうか?

下記の実証確認の焼却対象ごみ:江東区、千代田区、中央区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、渋谷区、豊島区、荒川区及び江戸川区の廃プラ混合可燃ごみ搬入量(平成20年10月~12月平均)約2,949.54t/週の内訳だけ見てもおかしいと思うのだけど~誰も何も質問しなかった。

そもそも平成19年度の清掃工場別区収集(可燃ごみ)ごみ量実績では
新江東清掃工場の区収集ごみ受入量は131,706t/年
内訳 江東区分 69,652t/年 ←日量にすると224t/日(年310日で計算)
江戸川区分 22,369t/年
その他 39,685t/年(千代田、中央、新宿、文京、台東、墨田、渋谷、豊島、荒川分)
それがどうして江東区分として349t/日の計画なのか?

新江東清掃工場建設計画の時ですら、しっかりと江東区以外の7区のごみを搬入する予定であると明言していたのに。元々いろんな区のごみを搬入することを組み入れた計画であるのに、その時々言葉のごまかしで、基本は「江東区分だけのごみ」などという江東区のごみを割り増ししてごまかすのではなく、きちんと「調整分」とか何らかの書きようがあるだろうに。~ ~最終的には~困ったときには江東区にお願いします~といういい方をしていた。こんなことで、一般廃棄物処理基本計画のごみ量予測なども正確にされるのだろうか?ますます懐疑的になっていきます。

委員からは、車両台数が増えたことや、他区のごみ量について等の質問がたくさん出た。しかし、以前のようなごみ問題に詳しく厳しい注文をつける議員さんも少なくなりました。

(2) 中防灰溶融施設溶融炉定期補修工事の施行について

東京二十三区清掃一部事務組合からの報告(資料4から)

中防灰溶融施設溶融炉の平成20年度定期補修工事については、平成20年10月21日契約不調となったため、法定点検や操業継続に不可欠な一部工事を除いて、平成21年度に延期したところである。その後、工事の施工者、実施方法等について検討を行った結果、平成21年度の定期補修工事については、早期に実施すべきものを「補修工事その1」通常の定期補修時期(11月～3月)に実施するものを「補修工事その2」とし2回に分け施工することにした。

工事件名: 中防灰溶融施設溶融炉補修工事その1

契約金額: 76,650,000円

工事期間: 平成21年4月24日から7月18日まで

請負者: 三菱重工環境エンジニアリング(株)

工事概要: 各炉の誘引ファン、コンベヤ、直流電源設備、窒素ガス製造装置などの点検補修

入札経過: (予定価格 77,443,800円

(第一回見積価格) 79,800,000円

(第二回見積価格) 76,650,000円(契約)

中防灰溶融施設溶融炉補修工事その1 契約までの経緯

平成20年10月21日: 平成20年度中防灰溶融施設溶融炉補修工事が契約不調となる。

平成20年10月27日～11月16日: 電気式灰溶融炉の建設実績のある企業(7社)に「他メーカーの定期補修工事を代替えて請負うか」を打診する。(全メーカーがリスク大きすぎると辞退)

平成20年10月28日: 一方、三菱重工環境エンジニアリング(株)と今後の操業(設備の安全性など)について協議

平成20年11月18日: 全員協議会報告

平成20年12月1日: 三菱重工環境エンジニアリング(株)より施工体制等を見直すという報告を受ける。

平成21年1月～2月: 法令定点検及び操業継続に必要な補修工事等を実施

平成21年3月5日: 「中防灰溶融施設溶融炉補修工事その1」の工事内容及び手順等の打ち合わせ開始

平成21年4月24日: 「中防灰溶融施設溶融炉補修工事その1」契約

工事件名: 中防灰溶融施設溶融炉補修工事その2

工事期間: 平成21年11月から12月予定

工事概要: 補修工事その1以外の定期補修～耐火物等(まだ具体的な内容は決まっていない)

請負者: 三菱重工環境エンジニアリング(株) 予定

契約金額予定: 1億6千万円 + & = 2億5～6千万円予定

法令定点検及び操業継続に必要な補修工事等を実施

工事期間: 平成21年1月から2月

工事概要: 電気設備、クレーン、計量器、プラント用空気圧縮機及び除湿機、出滓樋、水槽

■ S議員: 平成19年の鉛、水銀事故から～実質稼働はほどの程度なのかの質問

● 東京二十三区清掃一部事務組合・平成19年度は2ヶ月～3ヶ月稼働、平成20年度は3ヶ月～半年稼働

(3) 新江東清掃工場廃プラスチック混合可燃ごみの焼却実証確認実施報告について 東京二十三区清掃一部事務組合からの報告(資料5から)

廃プラスチック混合可燃ごみの焼却実証確認実施報告(3回目)
(平成20年10・11・12月実施)

2 実施清掃工場及び焼却対象ごみ

実施清掃工場:新江東清掃工場(焼却能力:1,800t/日)

焼却対象ごみ:江東区、千代田区、中央区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、渋谷区、豊島区、荒川区及び江戸川区の廃プラ混合可燃ごみ

廃プラ混合可燃ごみ搬入量
(平成20年10月～12月平均)
約 2,949.54t/週

<内訳>

江東区:約 145.19t/週
千代田区:約 119.07t/週
中央区:約 4.40t/週
新宿区:約 746.15t/週
文京区:約 366.49t/週
台東区:約 475.57t/週
墨田区:約 604.41t/週
渋谷区:約 12.09t/週
豊島区:約 4.05t/週
荒川区:約 289.38t/週
江戸川区:約 182.74t/週

測定項目

排ガス(煙突)、排水、焼却灰、飛灰、汚水処理汚泥等の測定結果はすべて法規制値及び協定値を下まわった。測定値は、実施前と同程度であり、廃プラ混合可燃ごみを焼却した影響は見られなかった。また、各測定値は、平成17年度全工場測定値から判断して通常の焼却による出現範囲であった。周辺大気環境調査、運転データも同様、すべて法規制値及び協定値を下まわった。廃プラ混合可燃ごみを焼却した影響は見られなかったというもの。

ごみ性状調査

- ・バンクごみ(実際に焼却するごみ)に占める廃プラスチック(皮革、ゴム類含む)の割合は16.24%であった。
- ・廃プラ混合可燃ごみに占める廃プラスチック(皮革、ゴム類含む)の割合は21.14%であった。

■G議員が新江東清掃工場の故障やトラブルで廃プラスチック類の焼却がボイラー関連に与える影響等について質問。

●東京二十三区清掃一部事務組合側は、新江東清掃工場は建設から10年経過しているため、工場の老朽化なのか廃プラスチック焼却の影響なのかなんともいえないような回答があった。

●混合可燃ごみの焼却実証確認(第4回)は4月実施。実施報告は9月頃公表予定

11区分のごみである。さすがに可燃ごみに占める廃プラスチック(皮革、ゴム類含む)の割合は21.14%

(4) 新海面処分場Dブロック護岸構造の変更について

(5) 有明北地区(3区域西側)の土地利用方針の明確化について

- - - 報告事項(5)まででお昼休憩になってしまった。午後から用があるため、傍聴もここまで - - -

(6) 豊洲新市場予定地における土壌汚染対策等について

(7) 豊洲新市場建設事業に係る環境影響評価調査計画書に対する周知地域区長の意見について

(8) 病院事業予定者の選定について